

表1 S P F 牛群の検査及び処置

病 原 体	供試抗原 ¹⁾	検査時期及び検査頭数		検査方法 ²⁾	処 置
		時 期	頭 数		
アイノウイルス	JaNAr28	3 か月 毎	群5頭又は10%のいずれ が多い頭数	SN	抗体陽性群・同居群 ³⁾ 全殺
カスバウイルス	K-47	"	"	SN	"
牛アデノウイルス	袋井	"	"	HI	"
日本脳炎ウイルス	中山	"	"	HI	"
牛エンテロウイルス		"	"	SN	"
牛ライノウイルス		"	"	SN	"
牛レオウイルス		"	"	HI	"
イバラキウイルス	No. 2	"	"	HI	"
アカバネウイルス	JaGAR39 OBE-1	"	"	HI ELISA	"
オーエスキー病ウイルス		"	"	臨床症状	陽性群・同居群 全殺
ブルータングウイルス		"	"	ゲル沈	抗体陽性群・同居群 全殺
牛コロナウイルス	掛川	"	"	HI	"
牛流行熱ウイルス	YHL	"	"	SN	"
牛伝染性鼻気管炎ウイルス	No. 758	"	"	SN	"
牛白血病ウイルス	FLK-HK-11 FLK-SP	"	"	ゲル沈 受身H I	"
牛乳頭腫ウイルス		"	"	臨床症状	"
牛バルボウイルス	BF-15	"	"	HI	"
牛丘疹性口炎ウイルス-偽牛痘ウイルス		"	"	ゲル沈	"
牛RSウイルス	NMK7	"	"	SN	"
ロタウイルス	Lincoln	"	"	SN	"
牛ウイルス性下痢粘膜病ウイルス	Nose	"	"	SN	"
悪性カタル熱ウイルス	ウシカモシカ型	"	"	IFA	"
パラインフルエンザ3 ウイルス	BN-1	"	"	HI	"
コクシエラ パーネッティ		"	"	IFA	"
マイコプラズマ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
牛放線菌		"	"	菌分離	"
マンヘミア ヘモリティカ		"	"	菌分離	"
パスツレラ ムルトシダ		"	"	菌分離	"
ヒストフィルス ソムニ		"	"	菌分離	"
炭疽菌		"	"	臨床症状	"
ブルセラ	メリテンシス	"	"	AGG CF	抗体陽性群・同居群 全殺
サルモネラ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ウシ結核菌、ヒト結核菌	青山B及び10	"	"	ツベルクリン反応	抗体陽性群・同居群 全殺
ヨーネ菌	マイコバクテリウ	"	"	ヨーニン反応 ELISA	"

	ム アビウム				
レプトスピライントーローガンス	ヘブドマジス	〃	〃	AGG	〃
ピロプラズマ		〃	〃	血液検査	陽性群・同居群 全殺
アナプラズマ	マージナレ	〃	〃	CF	抗体陽性群・同居群 全殺
流行性出血病ウイルス ⁴⁾					
牛痘ウイルス、ワクシニアウイルス ⁴⁾					
口蹄疫ウイルス ⁴⁾					
ランビースキン病ウイルス ⁴⁾					
狂犬病ウイルス ⁴⁾					
リフトバレー熱ウイルス ⁴⁾					
牛痘ウイルス ⁴⁾					
水胞性口炎ウイルス ⁴⁾					

注 牛の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した牛については病理組織学的検査等を行う。

1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。

2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。
H I : 赤血球凝集抑制反応 E L I S A : 免疫酵素抗体法 S N : 血清中和試験 I F A : 間接蛍光抗体法
A G G : 凝集反応 ゲル沈 : 寒天ゲル内沈降反応 C F : 補体結合反応

3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。

4) 国内で発生がない（又は重要度が低い）ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。